

| 主な施策 | 事務 事業 番号 | 主要事務 事業名 | 事業概要 | 担 当 課 | KPI（成果指標①） | | | | | KPI（成果指標②） | | | | | 予算額 (千円) | |
|---------------------------------|----------------|-------------------|---|-------------|---|----------|--|----------|--------------------|-------------------------|----------|-----|----------|--------------------|-------------|---------|
| | | | | | 指標名 | 基準 年度 | 基準値 | 中期 目標 | R8目標値 | 指標名 | 基準 年度 | 基準値 | 中期 目標 | R8目標値 | | |
| Ⅰ「稼げるまち」の実現 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 道路ネットワークの整備 | 1 | 下関北九州道路整備促進事業 | 西日本地域の広域道路ネットワークを支える極めて重要な道路として、下関北九州道路の早期実現に向けた、調査及び都市計画にかかる手続等を行うとともに、国や関係機関に対して要望・提案活動を実施する。 | 都市交通政策課 | 早期実現のための要望活動を2県2市（福岡県、山口県、北九州市、下関市）経済界等で共同で実施した回数 | R3 | 2回 | — | 2回以上 | | | | | | | 7,000 |
| 再生可能エネルギーや水素拠点化を通じた市内企業の成長と産業集積 | 2 | 住宅・建築物の脱炭素化推進関連事業 | 「2050年のゼロカーボンシティ」実現に向け、住宅・建築物の脱炭素化に関するメリット等について、市民や地元事業者へ認識向上・意識啓発等を行うことにより省エネ住宅・建築物の普及促進を図る。 | 住まい支援室 | セミナー等の満足度（実施後アンケート：毎年度） | — | — | — | 80.0% | | | | | | | 3,000 |
| Ⅱ「彩りあるまち」の実現 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人や企業から選ばれるまちとしての価値向上 | 3 | 「小倉・黒崎」エリアの価値向上事業 | 小倉・黒崎地区の将来像を広く周知し、官民で共有する。あわせて、まちの魅力を高める官民連携プロジェクトを実装・推進し、民間投資の呼び込みを通じて、エリアの価値向上を図る。 | 都市再生企画課 | まちなかの居心地の良さを図る指標（安心感・寛容性・安らぎ感・期待感） | R6 | (小倉・黒崎の平均点) 安心感 4.7点 寛容性 4.7点 安らぎ感 4.0点 期待感 3.4点 (各8点満点) | — | 4要素で8点満点中各6点以上 | 小倉・黒崎駅周辺1kmエリア内の民間建設投資額 | — | — | — | R5～R8年度までの目標：合計600 | 億円 | 73,460 |
| | 4 | リビテーション推進事業 | 小倉北区京町三丁目14番地区において次世代仕様のオフィスビルの建設を行う事業者等に対して、整備費等の一部を補助する。 | 事業推進課 | 小倉・黒崎駅周辺1kmエリア内の民間建設投資額 | — | — | — | R5～R8年度までの目標：合計600 | 億円 | | | | | | 220,500 |

| 主な施策 | 事務 事業 番号 | 主要事務 事業名 | 事業概要 | 担当 課 | KPI（成果指標①） | | | | | KPI（成果指標②） | | | | | | 予算額 （千円） |
|-----------------------------|----------------|-------------------------|--|---------|---------------------------------------|----------|---|----------|----------------|------------|----------------------------------|----------|-------|----------|----------------------|-------------|
| | | | | | 指標名 | 基準 年度 | 基準値 | 中期 目標 | R8目標値 | | 指標名 | 基準 年度 | 基準値 | 中期 目標 | R8目標値 | |
| ウォーカブルなまちづくり、快適なまちなか歩行空間の整備 | 5 | 「小倉・黒崎」エリアの価値向上事業 | 小倉・黒崎地区の将来像を広く周知し、官民で共有する。あわせて、まちの魅力を高める官民連携プロジェクトを実装・推進し、民間投資の呼び込みを通じて、エリアの価値向上を図る。 | 都市再生企画課 | まちなかの居心地の良さを図る指標（安心感・寛容性・安らぎ感・期待感） | R6 | （小倉・黒崎の平均点） 安心感 4.7点 寛容性 4.7点 安らぎ感 4.0点 期待感 3.4点 （各8点満点） | — | 4要素で8点満点中各6点以上 | | 小倉・黒崎駅周辺1kmエリア内の民間建設投資額 | — | — | — | R5～R8年度までの目標：合計600億円 | 73,460 |
| 持続可能な公共交通ネットワークの再構築 | 6 | 未来につなぐ公共交通リ・デザイン事業 | 公共交通の利便性、持続可能性、生産性向上を目指すため、公共交通のDXやバリアフリー化等により、誰もが利用しやすい環境づくりに取り組むとともに、持続可能な公共交通ネットワークの再構築に向けた検討を実施する。 | 都市交通政策課 | 市内の公共交通人口カバー率 （北九州市環境首都総合交通戦略：5年毎） | R3 | 86.0% | — | 86.0% | | 公共交通に対する満足度 （行政評価市民アンケート：毎年度） | R3 | 66.0% | — | 70.0% | 17,279 |
| | 7 | みんなで創る！公共交通「北九州モデル」推進事業 | シニアをはじめとする交通弱者など、誰もが安心して移動できる公共交通の維持・確保を目指し、多様なお困りごとを把握し、新たな移動手段の確保に向けた検討や実証に加え、あらゆる世代への利用促進や啓発活動を進めていく、官民連携による北九州モデル（第2弾）を推進する。 | 都市交通政策課 | 市内の公共交通人口カバー率 （北九州市環境首都総合交通戦略：5年毎） | R3 | 86.0% | — | 86.0% | | 公共交通に対する満足度 （行政評価市民アンケート：毎年度） | R3 | 66.0% | — | 70.0% | 10,000 |
| 戦略的な定住・移住施策の推進 | 8 | 移住推進関連事業 | 北九州市への移住を推進するため、若者・子育て世帯をメインターゲットとして、情報発信、相談窓口、お試し暮らし、移住支援金や住宅取得等費用の支援等により、移住の検討段階に応じた切れ目のない支援を行う。 | 住まい支援室 | 移住支援金や住宅取得等費用の補助を利用した転入者数 | R5 | 630人 | — | 560人 | | | | | | | 147,400 |

| 主な施策 | 事務 番号 | 主要事務 事業名 | 事業概要 | 担 当 課 | KPI（成果指標①） | | | | | KPI（成果指標②） | | | | | 予算額 （千円） | |
|--|----------|---|---|----------------------|---|------------------|-------------|--|-------|--|------------------|-------|----------|-------|-------------|---------|
| | | | | | 指標名 | 基 準 年 度 | 基準値 | 中期 目標 | R8目標値 | 指標名 | 基 準 年 度 | 基準値 | 中期 目標 | R8目標値 | | |
| Ⅲ「安らぐまち」の実現 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 持続可能な都市経営を 目指したまちづくりの推進 | 9 | まちなか居住 移転支援事業 | 持続可能な都市経営の 実現に向け、災害から市 民の生命・財産を守ると ともに、まちなかの活力 を維持増進するため、区 域区分見直しによる市街 化調整区域への編入区域 等からまちなかへの移転 支援を実施する。 | 都市 計画 課 | 土砂災害に よる危険か らの回避 | — | — | — | | 土砂災 害によ る危険 からの 回避 | | | | | | 21,185 |
| | 10 | ミライの安心 につなげる 「住宅・建築 物耐震化等安 全推進事業」 | 市民の安全・安心な暮 らしを促進するため、民 間建築物について、耐震 化や危険ブロック塀の除 去、吹付アスベスト対策 にかかる工事費等を支援 するとともに、その普及 啓発にかかる取組を行 う。 | 建築 指導 課 | 住宅の耐震 化率 | R5 | 94.0% | R17年度 までの 目標： 住宅の耐 震化の完 了（おお むね解 消） | | 単年度 目標設 定なし | | | | | | 62,122 |
| 利活用を含めた空き家対 策 | 11 | 空き家対策事 業 | 相談対応のDX化を行う とともに、空き家バンク の対象を拡充するなど、 空き家・空き地対策の3つ の柱である「発生予防啓 発・管理促進」「活用促 進」「管理不全の解消」 を官民連携で取り組み、 総合的な対策を推進す る。 | 空き 家活 用推 進課 | 住宅・土地 統計調査に おけるその 他空き家数 （住宅・土 地統計調 査：5年 毎） | R5 | 27,600 戸 | R12年度 までの 目標： 27,600戸 | | 単年度 目標設 定なし | | | | | | 166,500 |
| 郊外部など公共交通の不 便地域における交通・生 活サービスの確保 | 12 | 地域の生活交 通を確保する 「おでかけ交 通支援事業」 | 公共交通空白地域にお ける地域住民の生活交通 を確保するため、おでか け交通を運行するタク シー事業者や車両の小型 化により路線を維持する バス事業者への運行支援 等を実施する。 | 都市 交通 政策 課 | 市内の公共 交通人口カ バー率 （北九州市 環境首都総 合交通戦 略：5年 毎） | R3 | 86.0% | — | 86.0% | 公共交通に 対する満足 度 （行政評価 市民アン ケート：毎 年度） | R3 | 66.0% | — | 70.0% | | 216,000 |